

二〇二四年度 公募推薦入学試験前期日程(子ども学部) 問題〔小論文〕

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

女性はママになる準備が自然と整うのかといえ、けっしてそんなことはありません。命を預かる重い責任に押しつぶされそうになりながら、初めてのことでだらけの毎日の中で必死に格闘しているのです。そんなママたちの感じているプレッシャーや怖さ、緊張感はどんなものなのでしょうか？

新入社員がいきなり社長に!?

新入社員として入った会社で、ある日突然、「君、今日から社長ね」と言われたら、どう感じますか？先輩も上司もいて、まだ自分は何の経験もないし、会社の事業に関する知識も多少聞きかじったくらいです。「やったラッキー!」と思える人は生まれで、「いや自分には無理です、荷が重すぎます」と思う人がほとんどなのではないでしょうか。

出産して母になった瞬間というのは、こんな状態によく似ています。私は初めて自分たちの赤ちゃんを抱いたとき、「ああこんなに幸せなことが人生にあったんだなあ、最強に大切な存在ができたなあ」と感激するのと同時に、「母親」という大きな「肩書き」がものすごい重さで降ってきたのを感じました。「どうしよう! すごいことになってしまった!」という思いが親としてのリアリティの始まりだったかもしれない。

女性だからといって、赤ちゃんを生んだだけでは育児に関してはまだ完全に素人です。

例えば私は、自分の胸から授乳する方法も、新生児の抱き方も、おむつのつけ方も、助産師さんに教えてもらわないと何ひとつわかりませんでした。持っている情報といえば、妊婦向けの雑誌1冊と、ネットで買ったやたら重くて大きな育児書が家にあるくらい。このふにやふにやと壊れてしまいうような存在を、家に「持ち帰って」果たして大丈夫なんだろうか、やっていけるんだろうか、とそんなふうに思った記憶があります。ママたちが不安もなく堂々として見えるのは、出産自体でハイテンションになっているのと、強い責任感でその不安を意識下にぎゅっと抑え込んでいるからでしょうか。

もちろん個人差はあるでしょうが、母になった直後というのは、それくらい頼りない感覚でもおかしくありません。本やネットの知識で「武装」しているだけで、実は大きな不安をかかえているのです。出産した途端に「母としての本能的な何か」が降りてきて、自動的に育児のエキスパートになるなんてことはけっしてないのです。

よく、「男性は急には父親になりきれない」なんていう表現を耳にしますが、女性だって似たようなもの。突然母になってどうしていいかわからないくらい、本当は不安です。でも、自分がやるしかない状態に放り込まれてしまったので、やむを得ず体当たりで目の前のことをこなしているに過ぎません。

それを「やっぱり女性だからできるんだ」と簡単にとらえてしまったら、ギリギリの線で踏ん張っているママの気持ちは救われません。母になるということは、知識と経験、そして慣れの積

み重ねのみで成り立ちます。スタートの時点で、パパとたいして条件は違わないというわけです。

(狩野さやか 『ふたりは同時に親になる』)

※設問のために一部改変

問い一 本文を二〇〇字程度で要約しなさい。

問い二 母親が育児不安を抱えた場合、父親ができることについて、二〇〇字程度にまとめて述べなさい。